

実施報告書

第30回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ

ミキハウスカップ東京2020

実行委員長 野村 泰造

レース委員長 谷口 弘次

はじめに

令和2年10月18日(日)、第30回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ「ミキハウスカップ東京2020」が東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所に於いて開催されました。

一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟（以下 JJYU という）と一般社団法人東京都ヨット連盟の共同主催で、特別協賛を「株式会社ミキハウス様」に頂き、スポーツ庁、外務省、公益財団法人日本セーリング連盟（以下 JSAF）の後援を頂きました。若洲ヨット訓練所の管理会社 NPO 法人マリンプレイス東京、一般社団法人東京都ヨット連盟、若洲ヨットハーバーで活動されている夢の島ヨットクラブ、江東ジュニアヨットクラブ、中央区ヨット連盟ジュニア部、江東区立小中学校セーリング部の指導者・保護者の皆様の協力を頂いて無事に大会を開催出来ましたことに御礼申し上げます。

今回のレガッタは新型コロナウイルス感染拡大状況から日本全国でヨットを含めたあらゆるスポーツ大会が中止となる中で、レースに出場したいと熱望するジュニアの為に何としてでも開催するという信念のもと、JSAF、スポーツ庁の指導に沿った大会運営マニュアルに従って、JJYU、NPO 法人マリンプレイス東京、一般社団法人東京都ヨット連盟の3者で幾度ともなく協議を重ねて実現出来た2020年度唯一の JJYU 主催の大会となりました。

心配された参加数ですが、北の北海道室蘭セーリング協会をはじめ兵庫県 WW ユースセーリングの9クラブ33艇（OP 級初級者16艇、OP 級上級者12艇、レーザー4.7 5艇）のエントリーがありました。クラブの指導者・保護者28名に運営役員・委員35名と総勢96名参加の密を避けた最低限のメンバーでの大会となりました。

運営役員、スタッフは二週間前から健康に留意しソーシャルディスタンスを保ちながら緊張の面持ちで集まり7時30分には、オープンチャットによる初めてのエントリー方式で出席を確認、感染防止対策チェックシートの受付箱への投入で参加受付を行いました。例年通り参加賞としてミキハウス様提供の記念品をお渡ししました。



東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所



野村実行委員長



朝の運営ミーティング



艇の搬入



艀装風景



開会式

8時30分より開会式を行ないました。

冒頭に、長い闘病の末に8月にお亡くなりになられた佐藤精知夫 J J Y U元副会長のご冥福をお祈りして黙とうを参加者全員で捧げました。その後伊藤雅宣 J J Y U 副会長に開会のご挨拶を頂きました。

密を避けて全員マスク着用の皆様のご協力により、約10分程度の時間で執り行う事が出来ました。

開会式に引き続き谷口弘次レース委員長のもとスキッパーズミーティングが手短に行われました。



蜜を避けての開会式



佐藤精知夫元副会長のご冥福をお祈りして黙とう



伊藤雅宣 JJYU 副会長ご挨拶



谷口レース委員長によるスキッパーズミーティング



レース

今大会は新型コロナウイルス感染拡大防止を最優先し、レースエリア、コース設定、出艇・帰着申告方法も工夫しての（スマートフォンのLINEオープンチャットを使用）開催となりました。

OP 初級者クラスのレースエリアは通常は若洲ヨット訓練所前ポンド内に設定し、コーチや保護者の声援の中ヨットレースを体験するのですが、今年はポンド内が若洲ヨット訓練所の講習会のために使用できないこともあり、又、JSAF が推奨する無観客での大会運営マニュアルに従い、OP 上級者クラスと同じ若洲沖三枚洲付近海面でレースすることとなりました。

風速コンディションは北の微風と初級者にはとても良かったのですが、前日までの雨天による影響で荒川の流力が強く、スタートから1マークまでの上りのコースはかなり厳しいものとなりました。

コース設定はコンパクトな運営を心がけたため、上下のソーセージコースを採用しました。OP 初級者クラスには専用の距離が短い1マークをもう一つ用意し、負担を軽減しました。

レースはレーザー4.7、OP 級上級者クラス、OP 級初級者クラスの順でスタートし、レーザー4.7は4レース、OP 級上級者クラスと初級者クラスは3レース実施できました。

【第1レース】

10°、9kt、S~2:200m、2~1:1000m、2~1b:600m の設定でレースしました。

引き潮の中、若干左海面が川の流力の影響を受けていましたが、ブローで11kt あったこともあり、潮の影響よりも±20°の振れを上手に掴んだ選手がレースを引っ張る形になりました。

初級者の中には風速と潮の流れに対応できない選手がおり、残念ながらDNS やリタイヤも出ておりました。

【第2レース】

5°、7kt、S~2:300m、2~1:900m、2~1b:600m の設定でレースしました。

少し風速が落ち、それに伴い振れは±10°になったものの、左海面の川の流力が強くなりそれに気づかずアウター側からのスタートした選手、右海面を使うことの出来なかった選手はどんどん遅れをとってしまうレース展開となりました。

OP 級初級者クラスにおいては、風速も5ktまで落ち込んだこともあり、右海面と左海面に大きな差が出ました。セールトリムに集中できなかった選手が多かったことが、フィニッシュが3艇のみとなった要因と思います。逆の発想で、ダウンウィンドウの際に流れを利用できますが、今大会ではそれを利用しようという選手は見受けられず、この辺りは選手それぞれの今後の課題ではないかと思いました。

【第3レース】

左海面の荒川の流れを避け海面全体をイーブンにするため、L旗を本部船に掲揚し、スタートラインを東側へ移動しました。

0°、5kt、S~2:300m、2~1:800m、2~1b:600m の設定でレースを実施しました。

第2レース後半から風速は落ちてきていましたが、潮の流れも落ち着きました。

風速が落ちると、風がまだらになり、如何に風を掴むかというセーリングの原点に差が出てきます。

各クラスとも先頭艇フィニッシュからレース終了までに時間のかかる結果となっています。

【第4レース】

若干風速が上がってきたものの風軸がなかなか定まらず、タイムリミットぎりぎりのスタートとなり、OP 級は上級者クラス、初級者クラスともスタート出来なくなり、レーザー4.7のみの第4レースとなりました。

0°、7kt、S~2:300m、2~1:800m の設定でレースを実施しました。

ちょうど走りやすい風域の中、短いコースで拮抗したレース展開でしたが、風の振れやブローの濃淡もあったの

で、もう少し戦略的にコース選択した方が良かったように思いました。

【レース全体を通して】

今大会では荒川の流れと潮流により、UFD やゼネリコはありませんでした。全体的にはスタートラインに到達しない選手が多く、もっと周りを良く見てベストスタートを目指して欲しいと思います。

選手の皆さんが更なるステップアップをし、来年の今大会でお会いできることを期待しております。

クラブ対抗レース

- 優勝 葉山町セーリング協会
- 2位 江東区立小中学校セーリング部
- 3位 横浜ジュニアヨットクラブ

OP 級上級者クラス

- 1位 中谷 健心 横浜ジュニアヨットクラブ
- 2位 青山 侑友 葉山町セーリング協会
- 3位 牧野 夏希 葉山町セーリング協会
- 4位 菅野 ころろ WW ユースセーリング
- 5位 神田 清琉 夢の島ヨットクラブ
- 6位 中川 出帆 葉山町セーリング協会

OP 級初級者クラス

- 1位 飯田 泰雅 葉山町セーリング協会
- 2位 稲葉 奏介 葉山町セーリング協会
- 3位 内野 紗良 江東区立小中学校セーリング部
- 4位 三浦 汰依 葉山町セーリング協会
- 5位 北岡 哩 葉山町セーリング協会
- 6位 赤塚 智 江東区立小中学校セーリング部

レーザー4.7

- 1位 飯塚 竜士 江東区立小中学校セーリング部
- 2位 北 七斗 江東区立小中学校セーリング部
- 3位 中川 祐太 江東区立小中学校セーリング部



レーザー4.7の攻防



レーザー4. 7のスタート



OP 級上級者のスタート



OP 級上級者上マークの攻防



OP 級初級者のスタート



余裕のトップ艇2894



本部船の運営

表彰式・閉会式

15:00 コロナ禍の中でのレガッタということで開催が危ぶまれましたが、表彰式・閉会式まで良くやってこれたという安堵はあるものの最後まで気を抜かず、参加者全員マスク着用で安全を重視しつつ滞りなくかつ適度の緊張のなかで行われました。

レース講評はレース委員長谷口弘次さんから頂きました。

コロナ禍の中で練習も儘ならなかった時期もあったので練習不足だったと思いますが、荒川の流れと潮流の影響によりスタートラインから戻されるためUFDやゼネリコはなかったものの、逆に、スタートラインに到達しない選手が多く、もっと周りを良く見てベストスタートを目指して練習をして欲しいとの注文がありました。

高間博之プロテスト委員長からは、今回のレガッタでは抗議が無かったことは素晴らしい大会だったとの講評と同時に、同じクラブの選手同士の間でケースとなる状況がいくつか見られたので気を付けるようにと挨拶がありました。

引き続き表彰式があり成績上位の方々が表彰されました。

また三起商工株式会社（ミキハウス）様を代表して2020東京オリンピック選手の須長由季さんが、練習で多忙の合間を縫って駆け付けて、ジュニア選手や保護者の方々への暖かい勇気の出るお言葉で、参加者皆が元気を頂きました。

皆様の協力により表彰式・閉会式も現状を考慮した短い時間にコンパクトかつ厳かに進める事が出来ました。

【医療救護委員からの報告】

非接触型体温計によるスタッフおよび選手、父兄の検温測定を参加受付前に行いました。

屋外での風の強い中での測定は、体表温度の低下でうまく測定できなかったため、屋内での測定に変更しました。

競技中は、低体温症や外傷の選手もなく無事、終了することができました。

今後もCOVID-19感染拡大の影響は続くと考えられるため、競技会開催には対策を行っていく必要があると考えられます。

今回、クラブごとに纏めて感染防止対策チェックシートを提出して頂いたが、医療救護委員会としては、選手、指導者・保護者、運営役員各個人個人の感染防止対策チェックシートを作成、提出して頂いた方が、より安全に管理できるのではないかと考えます。

最後に

毎年特別協賛を頂いている三起商工株式会社（ミキハウス）様、協力をいただいた各団体、企業の皆様とNPO法人マリンプレイス東京、一般社団法人東京都ヨット連盟、若洲ヨット訓練所のスタッフの皆様、夢の島ヨットクラブ、江東ジュニアヨットクラブ、江東区立小中学校セーリング部、中央区ヨット連盟ジュニア部の指導者・保護者の皆様のご協力に改めて感謝と御礼を申し上げます。

以上



表彰式、閉会式



OP 級初級者優勝の飯田さん



OP 級初級者上位入賞の皆さん



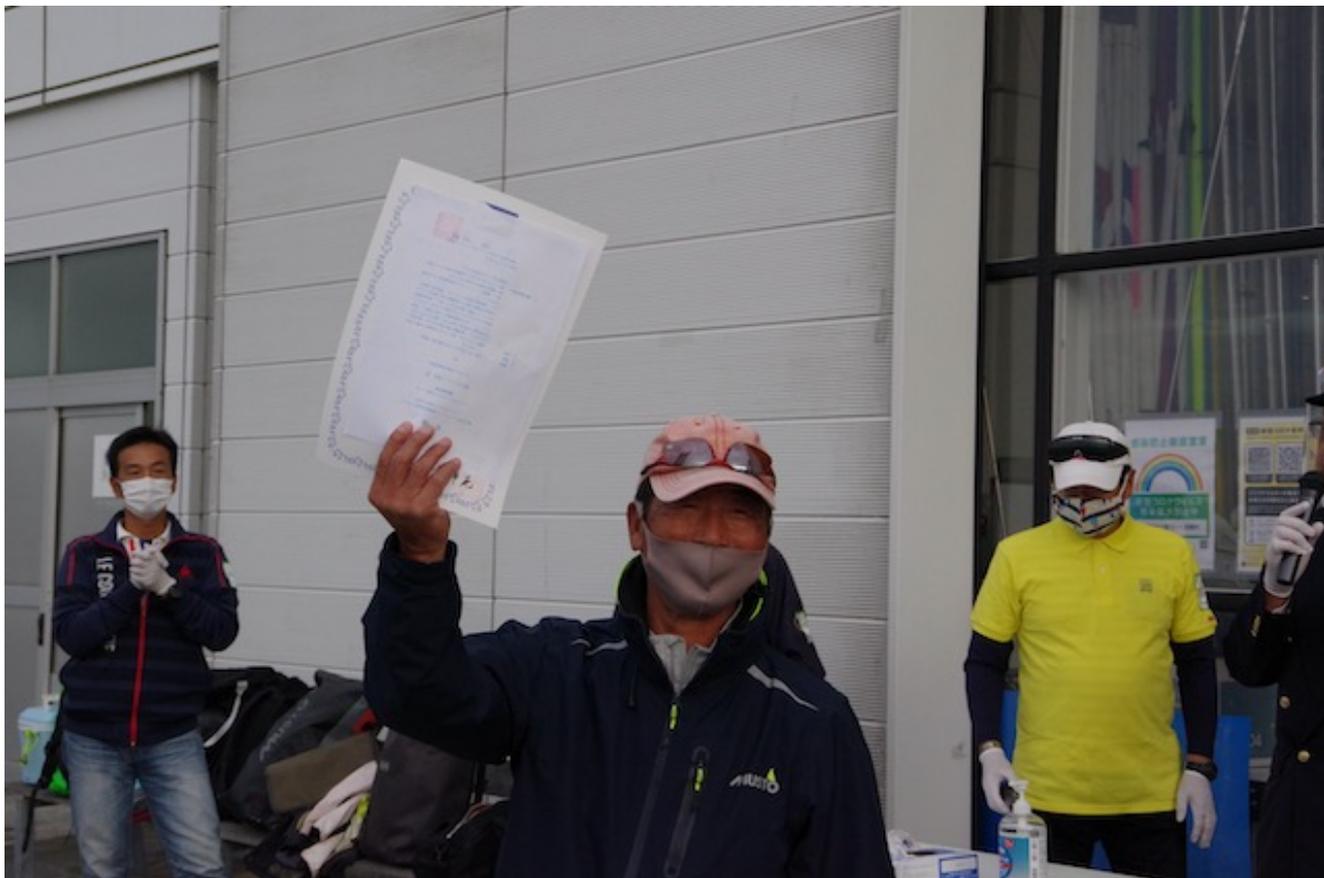
OP 級上級者優勝の中谷さん



OP 級上級者上位入賞の皆さん



レーザー4.7 優勝の飯塚さん（左）と上位入賞の皆さん



クラブ対抗レース優勝の葉山町セーリング協会



高間博之プロテスト委員長講評

須長選手のご挨拶